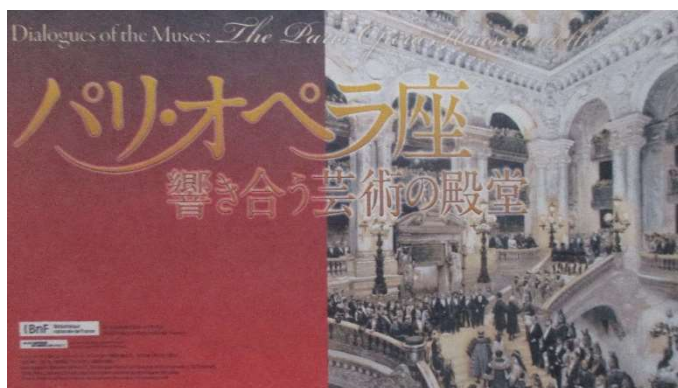


## パリ・オペラ座 —響き合う芸術の殿堂

東京・アーティゾン美術館(京橋) 22. 11. 05～23. 02. 05



パリの中心部に鎮座する「パリ・オペラ座」(ガルニエ宮)は、1669年に「ルイ14世」により設立されたパリ国立オペラを前身とし1875年に完成した、豪華絢爛なネオ・バロック様式歌劇場である。

現在、オペラとバレエの殿堂として多くの歴史を有し、音楽、舞踏、美術、文学を総合する施設である。

本展は、フランス国立図書館やオルセー美術館などから「約250点」の作品が来日して、国内外から集結したオペラ座の多面的な魅力を紹介している。



エドゥアール・マネ 《ハムレットを演ずるフォーール》1877年 油彩/カンヴァス

画伯は、印象派の先駆的画家で、本作に描かれているのは、ジャン＝パティ・フォーレという、当時オペラ座にてハムレット役を演じた俳優で、100回以上もハムレットを演じ、同時の絵画コレクターとしても有名な人物である。

画伯の作品の特徴は、近代の日常、風俗、静物、歴史、肖像、裸婦、風景など様々な画題を描き、当時流行していた日本の浮世絵からも影響を受けたという。



エドガルド・ドガ 《バレエの授業》1873～76年 油彩/カンヴァス

画伯は、“画家の代名詞”となるほどに、あらゆる場面、様々な構図で踊り子を描いている。

画面中央に杖を突いて、一人一人の踊りを厳しく指導しているのは、往年の名男子ダンサー「ジュール・ペロー」で、画伯の描いた踊りの稽古風景は、大部分このペローのダンス教室を対象にしたものとされる。画伯は他に「ペローの肖像」を何点か描いている。